

—— 将来像 ——

昭和（笑和）がみえるまち 一温故知新一

—— 地域の概況 ——

■大和地域位置



地域づくりのポイント：

- 朝市などの人と人とのふれあいがある
地域拠点
- 美しく豊かな田園景観
- 歩行者に安全な道路環境

地域の特徴：

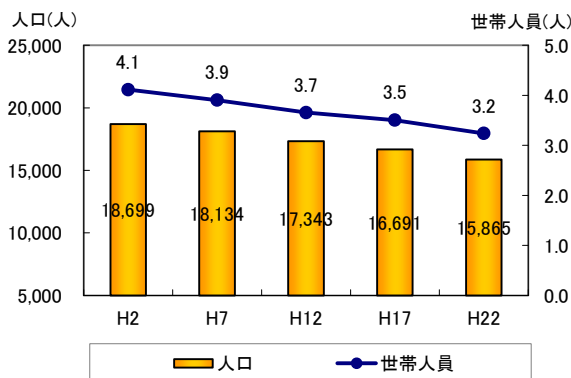
本市の南東部に位置し、南西が有明海に面し南東を矢部川が流れています。大和庁舎のある地域中央部に公共公益施設が多く、中島地区では昔から続く朝市が地域の魅力となっています。

市民意向調査結果：

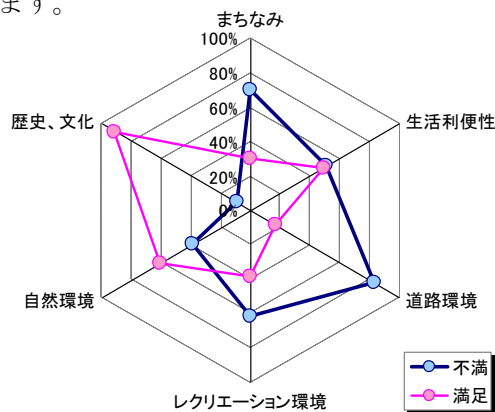
本地域では「歴史、文化」や「自然環境」に対する満足度が高い反面、「道路環境」「まちなみ」「レクリエーション環境」への不満度が高く、特に歩行者の安全性やバリアフリー歩道への要望が多くみられます。

人口動向：

市全体と同様に地域人口は減少していますが、北部の小学校区では人口が増加している地区もあり、地域内でも人口の増減に差異がみられます。



▲人口の推移



▲大和地域の満足度

—— 地域の現況と課題 ——

①土地利用

- ・中島二重地区は住宅が密集し道路が狭いため防災面に不安があることから安全面を考えた整備が求められています。
- ・地域に広がる農地保全ゾーンにおいて、宅地の虫食いのな農地転用が進んでおり、優良農地が失われ、農業経営が非効率になることが懸念される一方で、企業誘致などによる働く場の確保が求められています。
- ・有明海沿岸道路の沿線や駅周辺など開発が予想される地域については高層住宅や大規模集客施設の立地により優良農地が失われる恐れがある一方で、企業誘致などによる働く場の確保が求められています。

②交通体系

- ・国道 208 号など通学路になっている交通量の多い路線でさえ、歩道が設置されていないところが多く、歩行者に安全な道づくりが望まれています。
- ・日常の買い物の場であり観光資源ともなり得る朝市を今後も守るため、市内外からの来訪者を増やし活性化する必要があります。
- ・路線バスが運行されていないため、自らの移動手段を持たない住民にとって移動が不便でしたが、コミュニティバスの運行により改善がみられます。



弁天の桜並木

③都市施設（供給処理施設など）

- ・家庭から流れ出る未処理の生活雑排水や事業所排水の流入が、河川や掘割の水質汚濁の一因となっています。

④自然環境

- ・公園の利用率が低い状況があります。
- ・集落内の神社仏閣の緑地は、地域で守られています。
- ・有明海沿いの道路が未整備で車や自転車で景観を楽しむことができません。
- ・有明海の眺望を楽しむ視点場が不足しています。
- ・水辺に安全に親しめる環境が望まれています。

⑤景観

- ・「柳川市景観計画（平成 24 年 3 月策定）」に基づく景観の取り組みを進めています。



中島の朝市

—— 地域の将来像 ——

「昭和(笑和)がみえるまち－温故知新－」

大和地域は、田園風景が広がり、有明海に面した自然豊かな地域です。将来は水辺に水生植物が生え、野鳥が飛来し、朝市のようなふれあいのある商いがあった昭和の時代のように農業と漁業を中心としたのどかで穏やかな風景がある地域づくりを進めます。

—— 地域の都市づくりの方針 ——

①土地利用

- ・西鉄中島駅周辺は、地域商業地区として日常的な小売業を維持し、身近な都市機能が集積した地域拠点として整備を図ります。
- ・中島二重地区は、住宅市街地総合整備事業とあわせて、緊急車両が通行可能な道路の整備を行い防災性や居住環境の向上を図ります。
- ・干拓地に限らず農地は、営農環境を維持するために計画的な土地利用の促進を図ります。情勢の変化に合わせて他の土地利用の配置が必要な場合は、周辺の営農環境などへの影響が小さくなるよう最大限配慮するものとします。
- ・鷹ノ尾・芝原地区については、住環境に配慮しながら雇用の場の確保のため土地の有効活用を図ります。
- ・海苔養殖業を支援するために、漁業団地を活用して生産性や操業環境の向上を図ります。

②交通体系

- ・有明海沿岸道路や大牟田川副線バイパスなど広域幹線道路の整備を促進します。
- ・通学路や国道 208 号などの主要道路は、優先的に歩行者や自転車など多様な利用者が安全・安心して共存できる環境の整備を図ります。

- ・朝市を維持するため地域高規格道路など広域的な道路から観光客を呼び込むための案内板やソフト面の対応を検討します。
- ・自らの移動手段を持たない住民の日常生活を維持する公共交通などの維持を図ります。

③都市施設（供給処理施設など）

- ・合併処理浄化槽の設置を促進し、河川や掘割の水質保全に努めます。

④自然環境

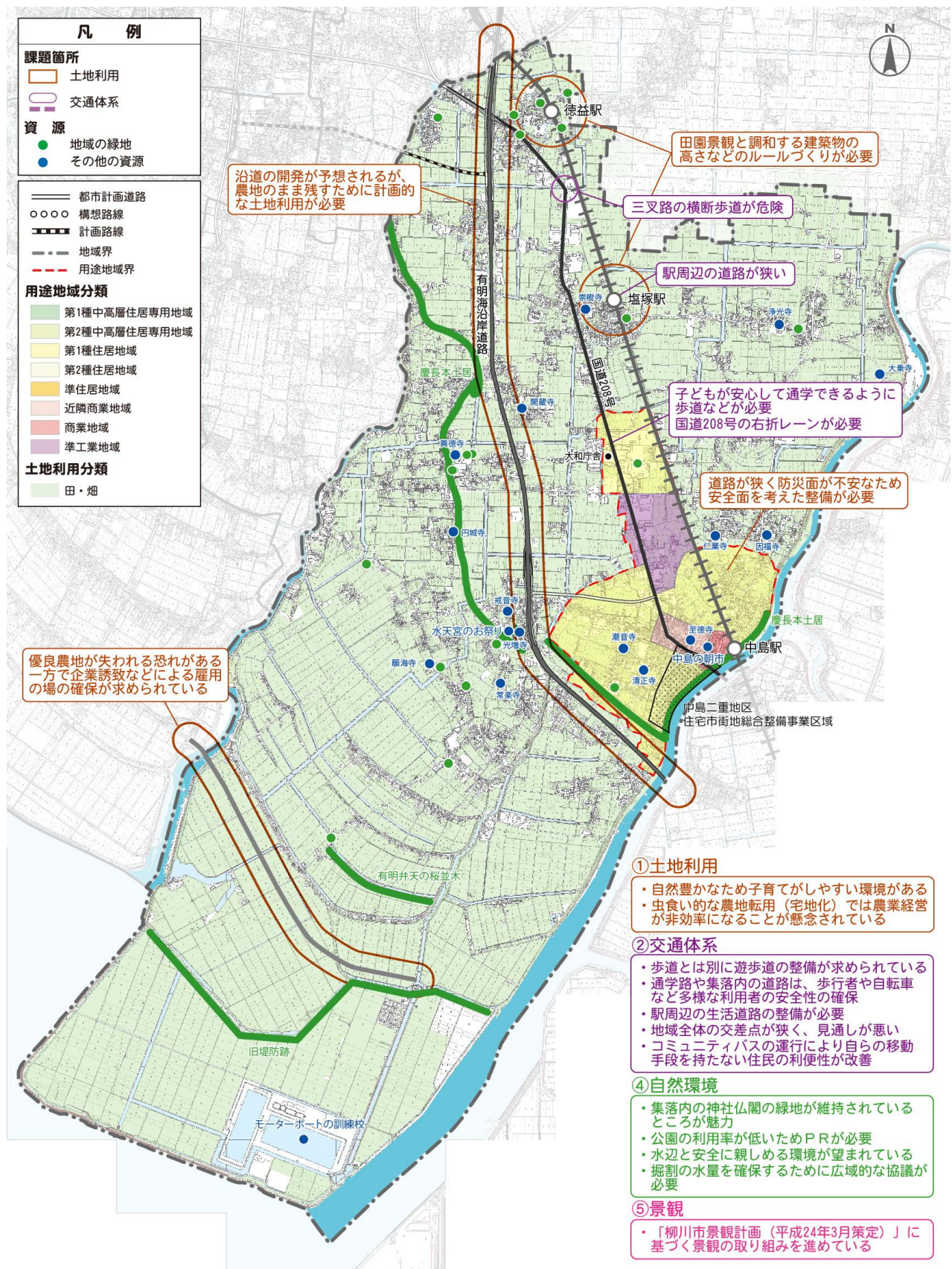
- ・農地周辺の掘割については、農業者と調整を図りながら農業環境に配慮した緑化や水辺づくりを図ります。
- ・地域拠点や集落の中にある掘割については、緑化や安全に親しむことができる水辺づくりを図ります。
- ・既存の公園は、公園利用率を向上するために地域住民の意見を取り入れた整備などにより改善を図ります。
- ・有明海の景観を楽しむための道路の整備や市街地と海辺のネットワーク化を検討します。
- ・有明弁天の桜並木や干拓地などを観光資源として活用を検討します。
- ・地域の自然環境を市民と行政が協働して守り育てる活動を推進します。

⑤景観

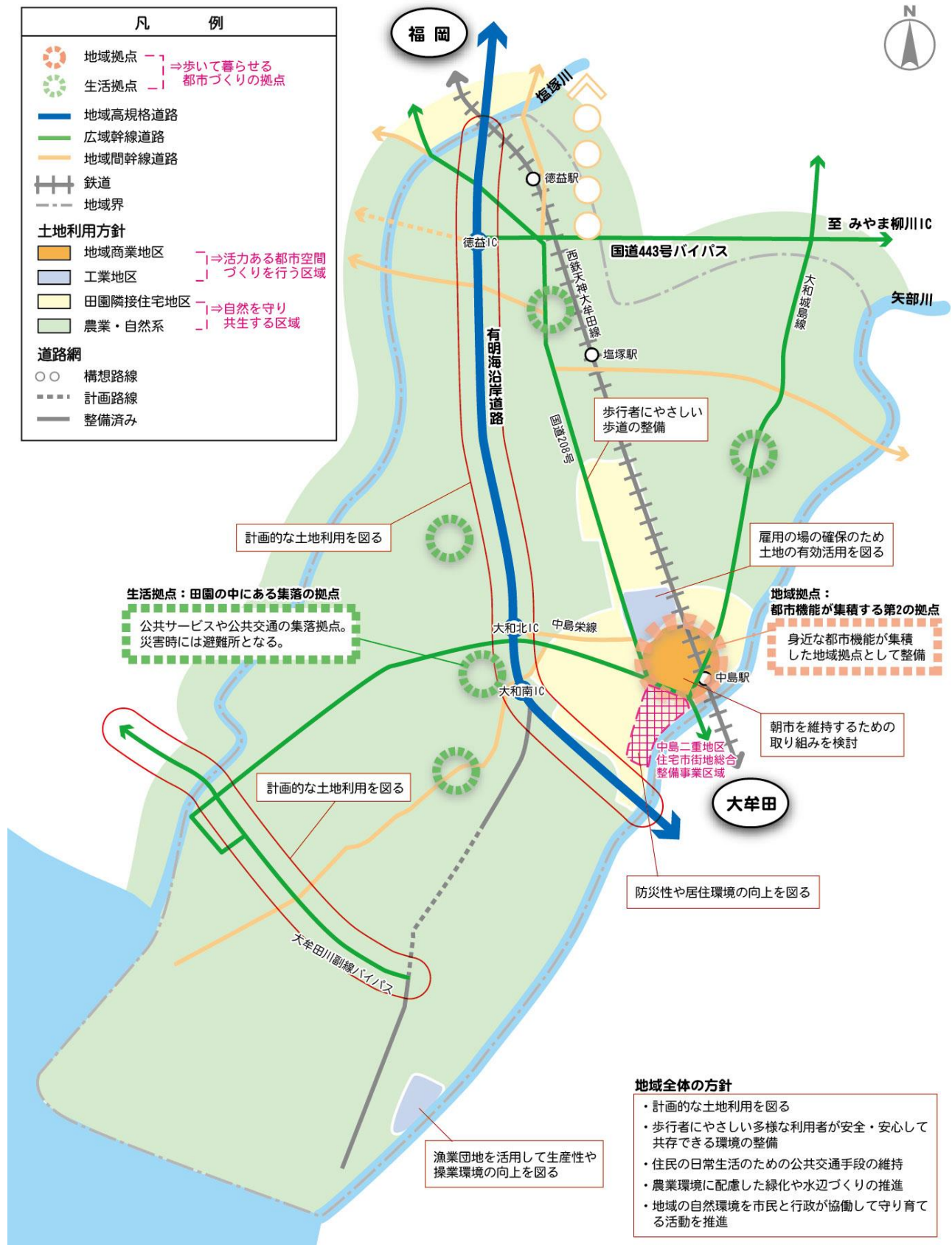
- ・「柳川市景観計画（平成 24 年 3 月策定）」に基づき、当地域北部は同計画における田園エリアの、また南部は同計画における有明海・干拓地エリアの景観形成方針および基準に沿った景観づくりを推進します。

※平成 18 年度に行った市民ワークショップ（景観まちづくり座談会）の意見などを基に作成しています。

地域の現況と課題図（資源と問題点）



20年後（2029年）の大和地域の都市づくり方針図



—— 将 来 像 ——

柳川や周辺地区の玄関としての顔づくり

—— 地域の概況 ——

■三橋地域位置



地域づくりのポイント：

- 広域的な柳川の玄関口
- 歩いて暮らせる広域拠点
- 貴重な動植物を育む二ツ川景観

地域の特徴：

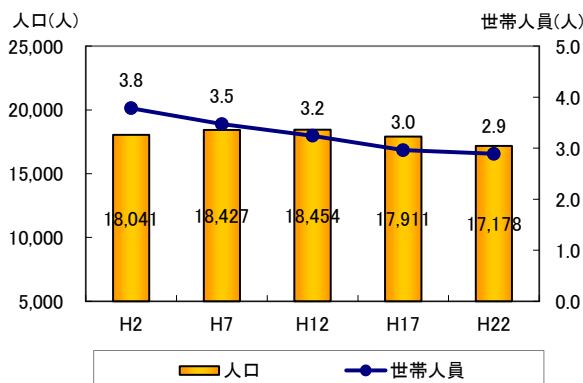
本市の東部に位置し、東は筑後市と大木町に面しています。また、西部に柳川駅があり市の玄関口として駅周辺や国道沿いに商業施設の立地が多くみられますが、東部には田園が広がっています。

市民意向調査結果：

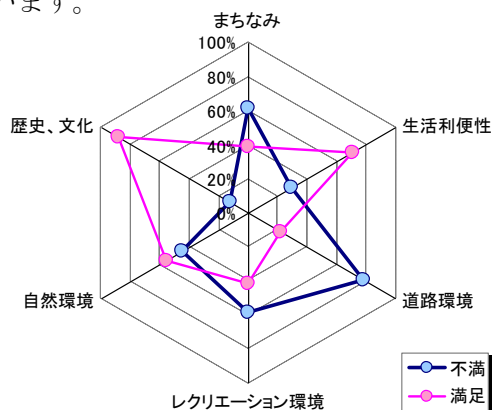
本地域では「歴史、文化」や「生活利便性」に対する満足度が高い反面、「まちなみ」「道路環境」「レクリエーション環境」への不満度が高く、特に歩行者の安全性や道路の渋滞に関する不満が多くなっています。

人口動向：

市全体と同様に人口は減少していますが、地域人口は最も多く、西部では人口が増加している小学校区があります。



▲人口の推移



▲三橋地域の満足度

—— 地域の現況と課題 ——

①土地利用

- ・西鉄柳川駅周辺は、交通利便性が高く、住環境が整っています。
- ・みやま柳川 IC に接続する国道 443 号バイパスなどの路線は、商工業などの沿道開発が予想されています。
- ・地域東部は、商業や住宅の虫食いの農地転用が進んでおり、優良農地が失われる恐れがある一方で、企業誘致などによる働く場の確保が求められています。

②交通体系

- ・国道 443 号など中心市街地の道路は、歩道が整備されておらず、交通量も多いため特に高齢者や子どもには危険です。
- ・通勤通学の時間帯は、送迎の車で駅前の混雑が東と西の駅前広場に分散することにより緩和される方向にあります。
- ・広域拠点と集落をつなぐ公共交通が不足しており、自らの移動手段を持たない住民の移動が不便でしたが、コミュニティバスの運行により改善がみられます。

③都市施設（供給処理施設など）

- ・下水道は、地域の一部分が計画区域になっており、早急な整備が求められています。その他の区域においても未処理の生活雑排水や事業所排水の流入が、河川や掘割の水質汚濁の一因となっています。
- ・公共公益施設が、公共交通が充実していない各所に分散しています。

④自然環境

- ・二ツ川は、水生植物や昆虫類、淡水魚類など絶滅が危惧される貴重な動植物が存在しています。市民団体による河川清掃が行われています。
- ・柳川駅周辺は、来訪者を迎え入れる自然環境が不足しています。
- ・公園の数は多いものの樹木や駐車場が少ない場所もあり利用率が低い状況があります。

⑤景観

- ・「柳川市景観計画（平成 24 年 3 月策定）」に基づく景観の取り組みを進めています。



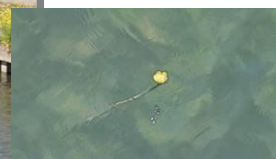
並倉



二ツ川



べんちょこ



オグラコウホネ

—— 地域の将来像 ——

「柳川や周辺地区の玄関としての 顔づくり」

三橋地域は、西鉄柳川駅や九州縦貫自動車道みやま柳川 IC に接続する国道 443 号バイパスなどがあり、広域的な玄関口となっています。広域拠点である西鉄柳川駅周辺を中心とした柳川の個性を生かした風格と活力ある地域づくりを推進します。

—— 地域の都市づくりの方針 ——

①土地利用

- ・ 柳川駅東部土地区画整理事業区域を中心とした広域拠点において様々な都市機能が集積した暮らしやすい住環境を整え、人口の維持に貢献します。
- ・ コンパクトなまちづくりを実現するため広域拠点に大規模集客施設の立地誘導を推進します。
- ・ 国道 443 号バイパスや有明海沿岸道路沿線など開発が予想される地域は、地区の特性にふさわしい土地利用を図ります。
- ・ 江曲地区の工業地区は、景観保全ゾーンに位置するため掘割景観との調和を図りながら、みそや醤油など伝統的な工業の維持を図ります。
- ・ 優良農地を保全するため計画的な土地利用を図ります。情勢の変化に合わせて他の土地利用の配置が必要な場合は、周辺の営農環境などへの影響が小さくなるよう最大限配慮するものとします。
- ・ 柳河、枝光地区については、住環境に配慮しながら工場施設の誘導を図り、雇用の創出や地域振興に取り組みます。

②交通体系

- ・ 有明海沿岸道路など広域幹線道路の整備を促進します。

- ・ 通学路や国道 443 号など広域拠点内の道路は、優先的に歩行者に優しい歩道や自歩道の整備を進めます。
- ・ 自らの移動手段を持たない住民の日常生活を維持するため広域拠点と生活拠点をつなぐ公共交通などの維持を図ります。
- ・ 広域拠点における駐車場の配置について、安全で快適な住環境やまち歩き観光を阻害しない適正配置に努めます。

③都市施設（供給処理施設など）

- ・ 下水道計画区域は、整備推進と普及率向上を図り、それ以外の地区は、合併処理浄化槽の設置を促進し、河川や掘割の水質保全に努めます。
- ・ 広域性の高い公共公益施設については、広域拠点に配置し利便性の確保に努めます。

④自然環境

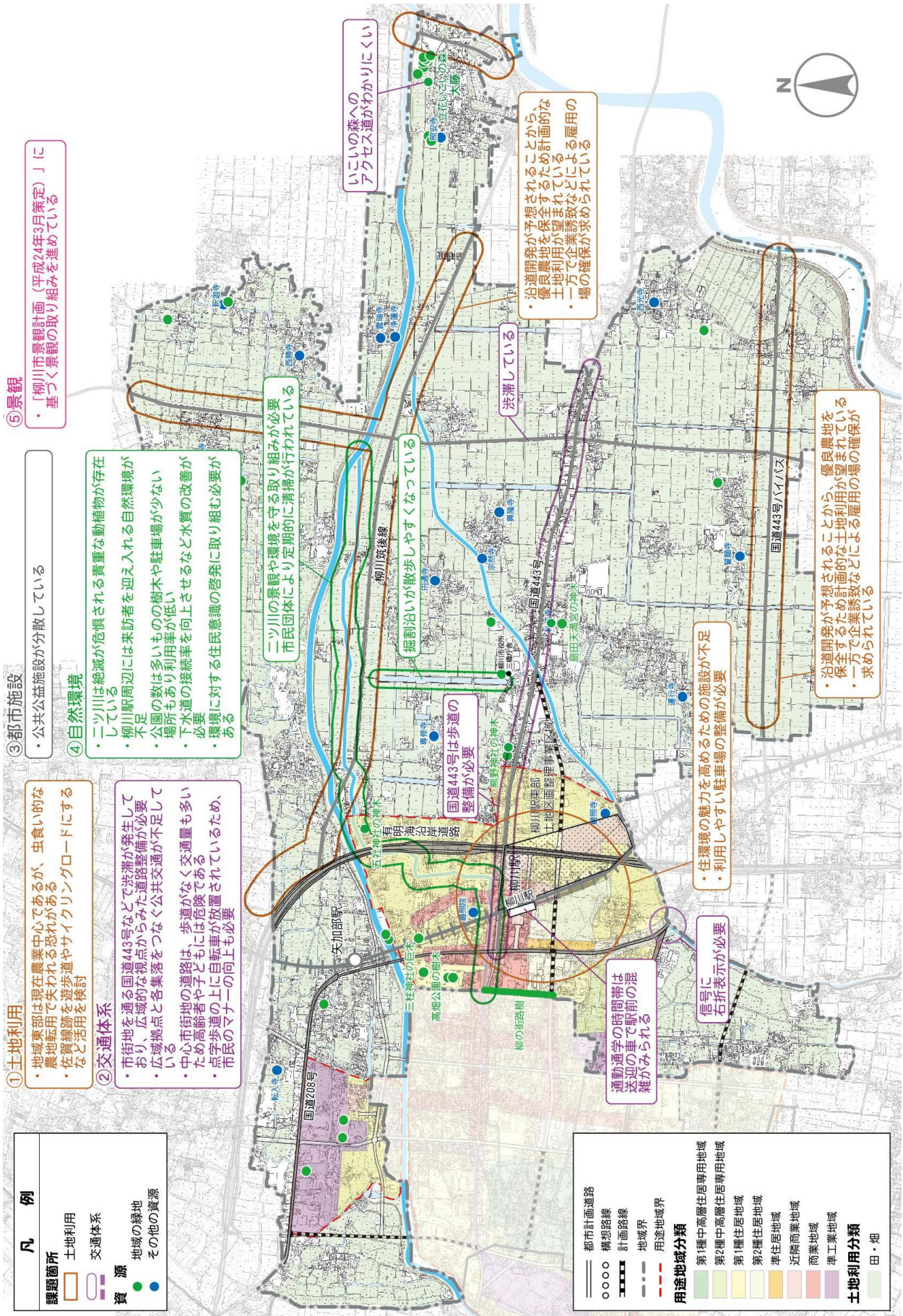
- ・ ニツ川の貴重な生物や植物を守ることを考えた整備を行います。
- ・ 西鉄柳川駅周辺は、柳川の個性を生かした緑化など、柳川の顔となる駅前にふさわしい取り組みを推進します。
- ・ 数多い公園や寺社などの緑地を地域住民と行政が協働して守ります。

⑤景観

- ・ 「柳川市景観計画（平成 24 年 3 月策定）」に基づき、当地域の西鉄柳川駅周辺部は同計画における中心市街地エリア（西鉄柳川駅周辺地区）の、またそれ以外は同計画における田園エリアの景観形成方針および基準に沿った景観づくりを推進します。

※平成 18 年度に行った市民ワークショップ（景観まちづくり座談会）の意見などを基に作成しています。

地域の現況と課題図（資源と問題点）



20 年後（2029 年）の三橋地域の都市づくり方針図

